

安全大会

◆宮坂建設工業（宮坂寿文社長）の防災推進会議
20日、帯広市内の北海道ホテルで開かれた。



同社や協力会社の社員ら約450人が出席。初めに宮坂社長が「安全で良い品質のものをおさめられるよう一層の協力をお願いしたい。一緒に働く人たちを家族と思い、一心同体の現場運営をしていく」とあいさつした。写真。

安全表彰が行われたあと、来賓による指導講話が行われた。

防災推進会議で 安全意識高める

宮坂建設工業

【帯広】宮坂建設工業（本社・帯広）は20日、市内の北海道ホテルで防災推進会議を開き、本格的な着工期を前に安全意識を高め合った。写真。



協力会社を含めて450人が参加。2017年度から災害防止協議会を全道6地区に組織し、安全教育やパトロールを通して施工現場の災害防止

に努めていく。

冒頭で宮坂寿文社長は「建設業は安全と品質が売り物」と述べ、社員と協力会社が一体となって作業の安全を徹底するよう呼び掛けた。

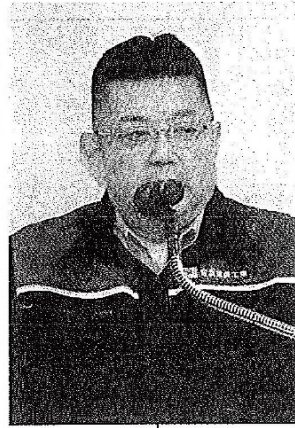
協力会社の安全表彰に続いて、帯広労基署の菊池俊文署長が講話。16年の防災発生状況を解説し、墜落・転落や重機の使用などに指導の重点を置く考えを示した。帯広

警察署の木下清人交通官と帯広消防署の井上富男指導課長もそれぞれの立場から講話した。

宮坂建設工業が防災推進会議

“休業災害ゼロ”へ一丸

400人参加 不安全行動の排除誓う



宮坂社長は安全と品質の確保を求めた

【帯広発】宮坂建設工業（株）（帯広、宮坂寿文社長）は、同社役職員、協力会社

は二十日、帯広市内の北海道ホテルで二十九年

度防災推進会議を開催した。同社役職員、協力会社などから四百人余りが参加し、安全衛生に関する講話などを実施。安全衛生目標「すべての労働災害について休業災害をゼロ件とする」のもと、尽力していくことを誓った。

くすとともに、互いに声をかけ合うなど徹底した「コミュニケーションを図り、現場運営を行ってほしい」と呼びかけた。

続いて、安全表彰を挙行し、宮坂社長が企業表彰・職長表彰の受賞者一人ひとりに対し、表彰状を手渡した。

このあと、帯広労基署の菊池俊文署長が「労働災害防止に向けて」、帯広警察署の木下清人交通官・北海道警視が「交通事故防止について」、帯広消防署指導課の井上富男課長が「災害に備えて」と題して、それぞれ講話した。

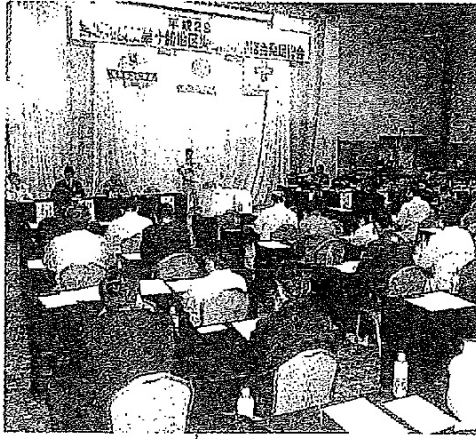
このほか、高道伸専務が「安全衛生計画・実施事項」について説明。最後に参加者を代表して、建築部の後藤智宏氏が安全宣言を行い、同会議を締めくくった。

宮坂建設工業協雄会が定時総会

安全・品質確保へ組織強化

十勝地区防災協立ち上げも

【帯広発】宮坂建設工業(株)(帯広、宮坂寿文社長)は二十日、帯広市内の北海道ホテルで協雄会定時総会および十勝地区災害防止協議会発足総会を開催した。規約案・会則案、二十九年事業計画案、予算案について審議し原案どおり可決。役員選出では、いずれも十勝道路(株)の山口富仁社長を会長に選任した。協力会社などで構成する協雄会は、従来から存在していたが、本社、札幌支社と独立していることから、組織の強化を図るため一元化を図った。加入者は、同



会員相互の連携を密にし、災害の防止を図っていく

社と一次契約関係にある施工会社を中心に、約百九十社となっている。

一方、災害防

止協議会は、本年度から新たに設立したもの。安全に関する会員相互の連絡を密にし、施工工事における災害防止を図るため、十勝をはじめ、釧路、道央など全道六地区に組織化した。当日は、規約案・会則案、二十九年事業計画案、予算案について審議し

可決。本年度事業計画には、防災訓練および災害対応への協力、安全パトロール、安全研修会の実施などを盛り込んだ。会長には、いずれも十勝道路(株)の山口社長が就任。あいさつに立った山口会長は、安全管理の徹底や、品質の確保に向け、会員各社

に一層の協力を呼びかけた。

同社では、これら二つの組織を発足させることで防災体制の強化を図り、一丸となって無事故・無災害の達成に向け、各種取組を進めていくこととしている。

宮坂建設工業札幌支社が防災推進会議

具体論の安全対策を

400人が無事故・無災害誓う



徹底した安全対策を呼びかける宮坂社長

宮坂建設工業(株)(帯広)の札幌支社(蔵田忠廣支社長)は二十七日、札幌サンプラザで二十九年度防災推進会議を開き、一年間の無事故・無災害を誓った。二十日の帯広本社に続く開催で、本支社役員と協力会社から合わせて四百人が参加。最初に、物故者に

全員で黙とうをささげた。

宮坂寿文社長はあいさつで、予防安全の観点から危険をダブルチェックできる安全対策を講じるなど「精神論から具体論に移る安全対策を徹底したい」と強調。施工期間中は「顧客のものを預かって(成果品を)納める。その間に現場を傷つけてはいけない」と受注産業としての基

本を説き、「駄目なことは捨て、いいことは取り入れる気持ちで現場に臨んでほしい」と呼びかけた。優秀協力会社・職員の安全表彰に続き、札幌中央労基署・富塚豊安全衛生課長、札幌方面北警察署・前

田裕樹交通官、札幌市消防局予防課・桂川真路防火安全係長が講話。同社の高道伸専務(安全品質担当)が安全衛生計画・実施事項を説明し、全員で安全第一の基本を再確認した。

宮坂建設工業札幌支社が管轄

「防災協」4地区が始動

衣替え「協雄会」札幌支部も

宮坂建設工業(株)(帯広、

た。

宮坂寿文社長)が施工工事の災害防止を図るため、道内六地区に本年度新たに組織した「災害防止協議会」のうち、道央など四地区の合同発足総会が二十七日、札幌サンプラザで開かれ

活動を展開する。



道央など札幌支社エリアの4地区合同で開かれた防災協の発足総会

本化した。

この日は札幌支社管轄の道央、函館、苫室、旭川の四地区、合わせて百四十五社からなる防災協が規約・会則、事業計画などを決め、無災害を目指す活動をスタートした。一方、同社と一次契約関係にある施工会社およそ百

九十社を中心に組織する「協雄会」は、これまで帯広本社、札幌支店(現札幌支社)に分かれて独立していたが、組織の強化を図るため一

400人参加し 防災推進会議

宮坂建設工業札幌

宮坂建設工業（本社・

帯広）は4月27日、札幌
サンプラザで札幌支社防
災推進会議を開いた。協
力会社を含む約400人
が、早期発見の安全管理

体制構築で、先取り安全
を進めることを申し合わ
せた。写真。



宮坂寿文社長は冒頭、
「当社のブランドは安全
と品質。現場の安全なく
して企業の安全はない。
機械の自動化で安全対策
を進めていく」とあいさ
つ。安全表彰では3個人、
3事業所に表彰状を手渡
した。

その後、札幌中央労基
署の富塚豊安全衛生課長
が防災防止、札幌北警察
署の前田裕樹交通官が交
通事故防止、札幌市消防
局の桂川真路防火安全係
長が建設現場での火災・
防火対策についてそれぞ
れ講話。安全品質担当の
高道伸専務は、安全衛生
計画・実施事項を説明し
た。

短 信

◆2017年度宮坂建設工
業札幌支社防災推進会議

4月27日、札幌サンプラ
ザで開かれた。

年度初めに労働災害防止な
どを再認識するのが目的。同



社社員をはじめ、協力会社や
警察・消防などの行政の關係
者ら約400人が出席した。

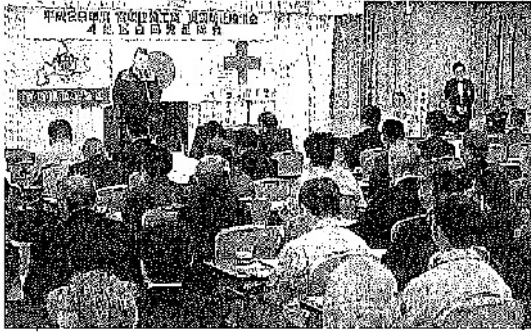
宮坂寿文社長は「安全の精
神論ではなく、具体論ででき
るように取り組んでいく。安
全の連鎖を断ちたい」とあい
さつ。写真。安全表彰では6
団体・個人に安全優秀賞など
の各賞が贈られた。来賓の労
基署、警察、消防の各担当者
らによる指導講和では、参加
者が熱心に耳を傾けていた。
推進会議に先立ち、今年度
から全道6地区で発足した
「災害防止協議会」が開かれ
た。札幌支社管轄では145
社で構成され、安全対策に向
け認識を共有。宮坂建設工業
本社（帯広市）と札幌支社で独
立していた協議会は組織強
化のため一元化された。

宮坂建設工業 防災協が発足

札幌支社管轄の
4地区合同総会

宮坂建設工業（本社・帯広）札幌支社はこのほど、札幌サンプラザで同社災害防止協議会4地区合同発足総会を開いた。労働災害ゼロを目指し、より実効性の高い安全衛生活動を進めていく。

4月27日、札幌支社所管エリア内で道央、函館、苫室、旭川の各地区協議会が発足。宮坂寿文社長は昨年台風災害に触れ、「建設会社として防災産業を目指したい」とあいさつした（写真）。



同会は1次契約関係にある施工業者を中心に全道約240社が加入。このうち4地区は145社で構成する。各社の事業発展と建設技術の向上、安全、品質確保、各種情報提供や、親睦を深めることが会の目的。今後は安全教育、パトロー

ルといった安全指導などを通じ、施工現場での安全衛生活動を推進していく。